

# 「旬の気象概況」の内容と資料の見方

2022 年 1 月 1 日

「山形県 旬の気象概況」は、気象官署、特別地域気象観測所及び地域気象観測所における気象観測値などをもとに、県内の天候について速報的にとりまとめたものである。

資料に掲載している観測値などは、後日、内容を訂正・追加することがある。

以下にそれぞれの掲載内容について説明する。

## 〈天候の特徴〉

旬の天候の経過や特徴、顕著現象の発現について記載する。

## 〈日々の気圧配置〉

県内の天気に影響を及ぼした低気圧や前線、高気圧などの日別の気圧配置を記載する。

## 〈山形・酒田の旬統計値〉（気候観測値）

山形地方気象台と酒田特別地域気象観測所の旬平均気温、旬降水量、旬間日照時間の観測値と平年差（比）、階級区分を記載する。

下旬号には月平均気温、月降水量、月間日照時間の観測値と平年差（比）、階級区分も記載する。

### ■旬・月統計値

| 要素（単位）        | 内容（最小単位）                                             |
|---------------|------------------------------------------------------|
| 平均気温（℃）       | 日平均気温から求めた旬または月の平均値（0.1℃）                            |
| 降水量（mm）       | 旬または月の降水量合計（0.5mm）<br>「0.0mm」は降水量0.5mm未満、「-」は降水なしを示す |
| 日照時間（h）       | 旬または月の日照時間合計（0.1h）                                   |
| 平年差（℃）/平年比（％） | 平均気温の平年差は平年値との差（0.1℃）<br>降水量・日照時間の平年比は平年値との比（1％）     |

### ■平年値と平年比較の階級区分

平年値は、その時々気象（気温、降水量、日照時間等）や天候を評価する基準として利用されている。10年ごとに更新しており、令和3年5月中旬の資料から1991～2020年の30年間の観測値をもとに作成した平年値を使用している。

階級区分は「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の3階級とし、それぞれの出現率は33.3%で同じである。aは統計期間内（1991～2020年）の最小値、fは最大値である。また、低い（少ない）方または高い（多い）方から出現率10%の範囲を、それぞれ「かなり低い（少ない）」「かなり高い（多い）」と表し、補足的に用いている。



なお、階級区分値を求めるための統計期間内の資料の分布に偏りがある場合は、平年値が階級区分の「平年並」に属さないことがある。

例：山形の10月の降水量の階級区分

かなり少ない  $\leq 34.2\text{mm}$  < 少ない  $\leq 59.7\text{mm}$  < 平年並  $\leq 96.5\text{mm}$  < 多い  $\leq 249.0\text{mm}$  < かなり多い

平年値「105.1mm」は階級区分では「多い」となる。（統計期間 1991年～2020年）

アメダス気象経過図：新庄・酒田・山形・鶴岡・長井・米沢の日最高気温・日平均気温・日最低気温・日照時間・日降水量の観測値と平年値を日別グラフで掲載する。